

3 遺跡の地層

大きく6層に分けられます。ただし、調査区は昭和55年ころまで畑として利用されており、北側を除いて耕作による攪乱かくらんが多く見られました。

I層 10～20cm 暗褐色シルト。表土層です。多くはかつての畑耕作土です。

II層 10～15cm 暗褐色シルト。古代～中世の遺物包含層ほうがんそうと考えられます。

III層 5～15cm 黒褐色シルト。古墳時代の遺物が見られます。

IV層 5～10cm 褐色シルト～粘土。地山漸移層じやまぜんいそうです。

V層 10～20cm 黄褐色シルト～粘土。無遺物層（地山）です。

VI層 20cm～ にぶい黄橙色砂質シルト。無遺物層（地山）です。



23K グリッド付近の地層（南から）

4 遺構

これまでの調査で掘立柱建物ほったてばしら、井戸、溝（堀）、土坑、ピットなどが見つかりました。これらは古墳時代、中世（鎌倉時代）のもので、遺構の時代は、土器や埋まった土などから決定しました。

古墳時代

土坑1基と遺物集中地点が2か所見つかりました。

108号土坑 北西部の1E区で見つかった径1m、深さ15cm程の浅い穴です。遺物は出土しませんが、埋まった土から古墳時代に掘られた穴と考えました。

遺物集中地点 北西部の1E・2F区の自然の落ち込みから土器が集中して出土しました。北側の調査区外から廃棄されたものです。

遺構・遺物の状況から古墳時代の集落の縁辺部と思われます。



古墳時代：遺物出土状況（南から）



108号土坑：土層断面（南から）